

# 早期実現への強い手応え

甲賀市長 中嶋 武嗣

長年にわたる要望活動や、三重県側からの働きかけにより、5月の滋賀県市長会の席上で滋賀県知事から前向きな取り組みについての発言を受け、あらためて国の関係機関等に説明や要望を行いました。

ここにきて、ようやく名神名阪連絡道路の整備区間指定への格上げが、あと少しの段階まできたことへの手応えを強くしています。

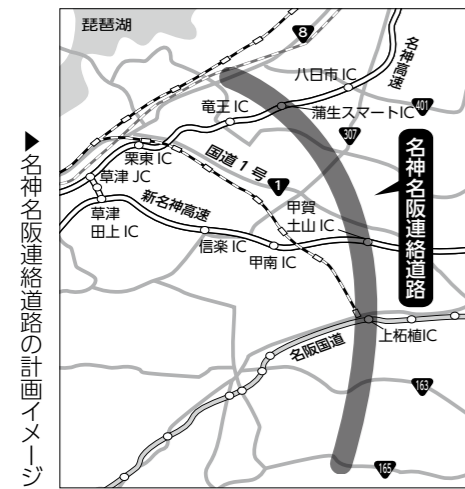
道路は繋がってこそ効果が発揮されます。

国土の中央を南北に結び、国土骨幹のネットワーク化を図ることは国土の発展に欠かすことができず、また、沿線地域のストック効果も計り知れません。

国土強靱化や地域創生に取り組むこの時期を逸することなく、滋賀県や三重県、関係自治体や関係団体との連携を深めながら、早期実現に向けた取り組みをさらに加速してまいります。



▲東京での促進大会で関係者の連携強化を訴える中嶋市長



▶名神名阪連絡道路の計画イメージ

今年度は、こうした活動を市民の皆さんにも広く知っていただくために、のぼり旗や啓発品などを使い多くの皆さんに関心を寄せてもらう活動を計画しています。

また、行政だけでなく市民の熱意も示そうと、平成19年に「名神名阪連絡道路の整備区間指定を実現する会」(村山孝男会長)が発足しており、署名運動や国・県への要望書提出などの活動が展開されています。

平成26年には市議会議員による「名神名阪連絡道路整備促進甲賀市議会議員連盟」も組織され、官民組織との連携強化による名神名阪連絡道路の早期実現に向けた積極的な取り組みが続けられています。

建設事業課 事業調整係  
05-0723-634401



▲総会であいさつをする村山会長

「実現する会」は設立9年目を迎え、中嶋市長をはじめ、各関係機関の皆様のご支援をいただきながら国・県等への要望活動をしてきました。また市内に看板等の広報活動も行ってきました。今年1月には東京の促進大会に出席し、この道路の重要性、必要性を広く認識いただけたと実感しています。

三重県は早くから国土強靱化計画を進めておられ、ようやく同じスタートラインに立てたところであり、これからが正念場です。

将来の甲賀市、私たちの子や孫世代のためにも、名神名阪連絡道路の早期実現に向けて、今まで以上のご支援とご協力をお願い申し上げます。

会長 村山 孝男

## 将来の子どもたちのために

名神名阪連絡道路の整備区間指定を実現する会



▲JR甲賀駅前に設置した啓発看板

# 早期実現へ始動

## 名神名阪連絡道路

**整備の重要性**

三重、滋賀の両県は本州の中央に位置しており、国土の東西を結ぶ高速道路や主要な国道が集中する交通の要衝です。

この道路は、北陸自動車道や伊勢自動車道と一体となって日本海側から、三重県伊勢地方および和歌山県などの太平洋側を結ぶ南北軸を形成し、東西の主要幹線と結ぶことで広域の道路ネットワーク機能を強化するものと位置づけられています。

特に、甲賀・東近江・伊賀地域は、大阪と名古屋の二大経済圏の中間に位置することから、産業や経済の発展はもちろんです。一般道路の渋滞緩和や生活道路の安全確保、救急搬送の時間短縮が図られることとなります。

**整備に向けた取り組み**

この道路の早期実現に向けては、沿線の6市2町(近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町・湖南市・甲賀市・伊賀市・名張市)で「名神名阪連絡道路整備促進期成同盟会」が組織され、市もその一員として、連携を図りながら、シンポジウムの開催や、国土交通省などへの要望活動を行っています。

今年1月には、初めてとなる促進大会を東京で開催し、関係者が整備実現に向けて決意を新たにしました。

名神名阪連絡道路は、近江八幡市の国道8号から名神高速道路蒲生スマートインターチェンジ、新名神高速道路の甲賀土山インターチェンジ、名阪国道の上柘植インターチェンジを経由して、三重県名張市の国道165号までを南北方向につなぐ約53kmの地域高規格道路です。

この道路の約30kmは、平成12年(2000年)に計画路線に指定されています。その後、長年にわたる滋賀、三重両県と関係市町の行政や議会、市民団体などの働きかけにより、いよいよ整備に向けた展望が拓けてきました。

また、南海トラフ地震や日本海側に所在する原子力発電所の事故などの発生に備え、避難や救援物資の輸送路といった広域連携が図れる幹線道路網として大きな効果が期待されます。